馬耳東風

秋風に揺れる一面の稲穂を見ると豊かな実りを思い，農村への郷愁を感じる．しかし，近年，地方を廻ってもこの実りの秋を実感できる風景に出逢う機会が減ってきた．かつての豊かな農地が宅地，工場用地となり，また耕作放棄地となり，虫食い状態になってしまった景観を見ていると，食料の輸入が止まったら日本はどうなるのかと心配になる．

目的を持たない土地が見あたらない程，管理が行き届いた国土が広がるフランス，イギリス，ドイツ等のヨーロッパの農業先進国をみると，彼らが如何に農業を重視しているか如実に解る．彼らが経験した長い歴史の中で，食料生産は単なる産業の一部である以上に国の存続にとって重要である，と言う認識を国民全体が共有していると考えられる．彼らは第二次大戦後に急速に食料生産量を伸ばし，自給率を向上させているが，そこには将来を見据えた農業政策の実施とそれを成し遂げた農業従事者の誇りさえ感じる．フランスのような360度地平線が見える農地，そこで営まれる人々の豊かな生活，農業国の余裕，国力どれをとっても盤石な安定感を感じる．かつては広大な森林が広がっていたであろう大地が農地に開拓される過程では膨大な緑を犠牲にしたに違いないが，時を経て国土の約半分に及んだ整然と管理されている農地を見ると，その豊かさに圧倒される．我が国とそれらの国とは国土の地形的条件，国情が大きく異なるため単純には比較できないが，結局は基本的な農業政策が広大な農地の維持・管理を可能にしているものと考えられる．

我が国の現状を思い浮かべると北海道を除いて農業地帯と言えるほど管理された農地が広がる地域はほとんど見られなくなり，その基盤は寒気がする位に貧弱である．農業を産業の一部として採算性のみを指標にして対応してきたことが，年間4兆円もの食料を輸入し，自給率を40％にまで低下させた要因ではないかと思われる．農業が果たす多面的機能として自然資源および生物多様性の保全，および景観の維持を掲げた「食料・農業・農村基本法」が1999年に制定され，それを受けて2000年に閣議決定された基本計画では今後10年間（2010年まで）で食料自給率を5％引き上げて45％とする目標が立てられた．当時，随分小さな数値目標だなと感じたものの，これならば具体的な政策次第で実現可能かとも感じた．10年以上経った現在，この成果はどのように評価されるであろうか．結果的には自給率は上昇しなかった．この間，かけ声だけは大きかったが，具体的で有効な政策は何があったのだろうか．記憶では，単に農家の所得保障のみであったような気がする．目標が達成できなければ，原因を究明し，再度対策を考えるのが常道と思われるが，いまさら再選に有効とも思われないことに関心は無いとでもいうのであろうか，話題にすら上らない．政策の事など横に置いて自分達の利益の事ばかり考えている議員は，迫り来る絶対的食糧不足時代にどのように対処しようと考えているのか，見えてこない．広大な小麦畑の真ん中に立って強烈に感じたことは単なる幻想であろうか．

（青）